

公共スポーツ施設の利用状況・利用目的および利用評価に関する研究

伊與 貴教 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 佐藤 馨

キーワード：公共スポーツ施設，利用状況，ヒューマンウェア

1. 緒言

平均寿命が世界一位である我が国（藤本，2002）では，人口構造の高齢化が進み，その率が高い傾向を示している．このことから国民の健康維持・促進などの多様な役割のあるスポーツの重要性は，益々高まっていると考えられる．SSF 笹川スポーツ財団（2004）スポーツライフ・データによると，運動スポーツを実施する際の公共スポーツ施設の利用状況は80.7%（複数回答）と高く，公共スポーツ施設は人々がスポーツを行うための重要な役割を果たしているといえる．以上の事から，我が国日本において公共スポーツ施設はスポーツをするうえで重要な場所であり，公共スポーツ施設を利用する人々の現在までの利用目的・利用状況および利用評価を把握することは，今後の公共スポーツ施設を考えるうえで重要なことだと言えよう．

そこで本研究は，日本に53,732箇所（2010年）ある公共スポーツ施設の平均的な利用状況・利用目的および利用評価を，これまでの先行研究結果をもとにまとめ，利用状況・利用目的および利用評価の現状を把握し，今後の公共スポーツ施設のあり方を考えるうえでの基礎資料を得ることを目的とする．

2. 研究方法

本研究は，先行研究を用いて記述する文献研究とする．「公共スポーツ施設」「利用者の評価」「利用する常連」「会員継続」などのキーワードで先行研究の論文をCiNiiや本学図書館で探し，その研究結果をまとめることにした．

3. 先行研究の検討

中澤（2006）によれば，公共スポーツ施設の〈常連〉は，施設の「ソフトウェア」「ヒューマンウェア」には満足するが，「ハードウェア」

に満足していない中高年層の無職者だということが分かった．中比呂志ら（1993）の研究から，公共スポーツ施設の利用者の多くが女性で，20代から70代までの人が多く，「ハードウェア」，「ヒューマンウェア」で満足しているが，「ソフトウェア」であまり満足していない無職者ということが分かる．森田卓ら（2009）は，性別では女性が多く，年齢別では30代から70歳以上の方が多く，職業別では会社員，主婦（パートなし），無職の方が多く，居住区別では，施設のある区内に居住している方が多く，利用頻度では週1～2回，週3～4回の利用をする方が多いということがわかった．

4. まとめ

先行研究の結果から，公共スポーツ施設を利用する人は，主に女性が中心になっており，主婦，無職，一方で会社員などの働いている者の利用も多いことが分かった．また，「ハードウェア」と「ソフトウェア」ではあまり高い評価がみられなかったが，「ヒューマンウェア」ではその施設の良いところがそれぞれ見られた．公共スポーツ施設の現状は「ヒューマンウェア」の存在が大きいことが分かる．

引用文献

中澤篤史（2006）「公共スポーツ施設の〈常連〉とはどのような人たちなのか - 横浜市における質問紙調査結果の分析を通して -」『東京大学大学院教育学研究科紀要』46, pp. 359-370

中比呂志ら（1993）「公共スポーツ施設に対する利用者の満足及び要望に関する研究」『体育・スポーツ経営学研究』10, pp. 29-42

森田卓ら（2009）「公共スポーツ施設のサービス評価に関する研究」『大阪体育大学紀要』40, pp. 185-194